

今月の 我がマチの 一番星☆



明春辺会館の花壇の草刈り
(8月7日)



戸津川 勇さん

農作業で培った経験を 社会奉仕として還元

「農業をしている会員が多いですよ」と老人クラブ友の会会長の戸津川勇さん。追分の農村地区を中心に結成しているため、農業に従事している高齢者が多いそうです。戸津川さんも戦後の食糧事情の厳しい時代に現在の地に入植し酪農を営んできました。

「今は子どもに経営移譲しましたが、農作業で鍛えた体はまだまだ現役」と笑顔で話します。毎年、友の会の事業として冬の安全運転啓発のため、正月用のしめ縄をドライパーに配布。会員が会館に集まりしめ縄づくりをしてきました。「20年以上も制作に携わり、皆さんベテランの方ばかりですよ」と戸津川さんは誇らしげに会員をほめます。友の会では、昨年から町道の空き缶拾いを始めました。

町や社会福祉協議会と協議して活動を

「ボランティア活動は平成元年から始めているんですよ」と話す安平駐屯地曹友会代表の福田和幸さん。曹友会の“曹”は陸曹から由来し、全国各地の部隊ごとに陸曹以下の隊員が加入し親睦と交流を深めています。町道のごみ拾いは毎年実施。



曹友会役員の福田さん(左)と西潟さん

農家の雪おろしを手伝ったこともあると言います。

「今年からは町や社会福祉協議会と協議し、地域のニーズを確認してから始めることにしました」と語り、第1回あびら夏！うまかまつりの事前準備の協力や早来神社にある忠魂碑の石碑を磨く作業を行いました。

「会員の3分の2は町外からの通勤者ですが、ボランティア活動に参加した隊員は『地元の人たちに貢献できて良かった』と満足していますよ」と福田さんは会員の充実した表情を思い浮かべながら話し、隊員の皆さんが的確で迅速に作業を行えるのも「多くを語らずとも何をすべきか一人ひとりが共通理解しているので作業もスムーズなのかもしれませんね」と笑顔で答えてくれました。隊員は全員年休を取って参加しているので、「気兼ねなく活動できる」と言う参加者もいるそうです。



忠魂碑とその周辺を清掃する安平駐屯地曹友会の皆さん

「近年、災害復旧や国際貢献など日本の自衛隊に寄せられる期待は大きくなっていますが、日ごろ自分たちが世話になっている地域の人たちのために役立つ活動は今後も続けていきたいですね」と福田さんは新たな取り組みについて目を輝かせ話していました。

「人目につかない農道に飲み物の缶を車からポイ捨てする人が多い」と参加した人たちは憤慨。土砂運搬のトラックが往来したり、ゴルフ場への近道として利用する車両など、通行量の多い道路が豊栄や弥生地区にはあります。今年から環境整備事業とし

て会館など3か所の花壇周辺の草刈りを実施。くわや刈り払い機は各自が持参し、若いころから農業で培ったノウハウを活かし手際よく雑草が取り除かれました。「季節保育所が開設されたときは、子どもたちの元気な声が聞こえていたが今は静かで、ほとんど使

われない遊具がかわいそうだ」と言う会員もいます。最後に、「例会や宿泊研修旅行など会員の親睦を深める事業以外に、自分たちができるボランティア活動について今後でも取り組んでいきたい」と会員の皆さんは前向きに考えているとのことでした。